

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 130人 国語B 130人

② 数学A 130人 数学B 130人

5 留意事項

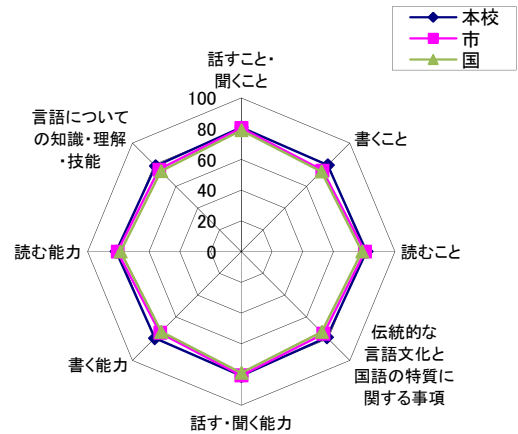
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

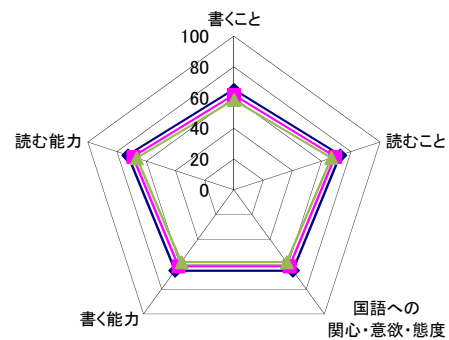
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.9	80.5	78.9
	書くこと	79.6	74.7	73.7
	読むこと	81.4	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.8	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	80.9	80.5	78.9
	書く能力	79.6	74.7	73.7
	読む能力	81.4	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	78.8	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	65.1	61.6	58.3
	読むこと	72.6	69.1	66.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	65.1	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	65.1	61.6	58.3
	読む能力	72.6	69.1	66.6
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

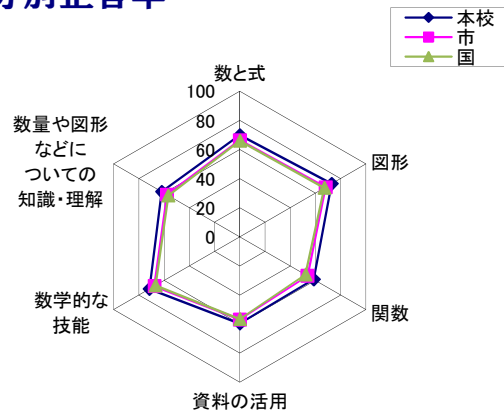
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A 宇都宮市より正答率が0.4%、全国より2.0%高い。 ●A 目的に応じて資料を効果的に活用して話すための問題が、宇都宮市より5.1%低い。	場面に応じて、正しい言語表現をすることができるように、敬語の学習を進めてきた。今後は、その中でも、尊敬語、謙譲語に力を置き、指導に努めたい。また、コミュニケーションにおいて、話を聞くということは不可欠である。「聞く時は聞く」、「話すときは話す」ことを、日頃の授業でも取り入れているが、メモの取り方なども再確認して指導していきたい。 また、何を伝えたい文章なのか要点を整理して話を聞かせるように指導する。
書くこと	○A 宇都宮市より正答率が4.9%、全国より5.9%高い。 ○B 宇都宮市より3.5%、全国より6.8%高い。	本校の今年度の学力向上プランの一つに、「自分の考えをまとめ表現する力の向上」が挙げられている。普段の授業から「活用型の授業」を意識して行うよう心掛けてきた成果であろう。作文指導を今後も重点的に行っていきたい。
読むこと	○A 宇都宮市より正答率が0.9%、全国より2.8%高い。 ○B 宇都宮市より3.5%、全国より6.0%高い。	小説や物語は、登場人物の心の動きを捉えること、また、評論文等は、筆者の意図や主張を読み取ることが大切である。そのため、本文へのマーキングを続けたい。また、物語や論説文の展開を、視覚的に把握するためのワークシートを作成し、活用していきたい。マーカーペンや付箋を使い、文章の要約に役立てたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A 宇都宮市より正答率が3.2%、全国より4.9%高い。	新出、既出を問わず、練習プリントを使って、漢字の学習を継続していく。また、語句の意味調べも、国語ワークを利用し、継続する。古文に関しても、重要語句を押さえ、語彙が増えるような学習を進めたい。慣用句やことわざは、国語資料集やことわざ辞典を使って調べ学習をさせることにより、自発的に取り組ませていきたい。

宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

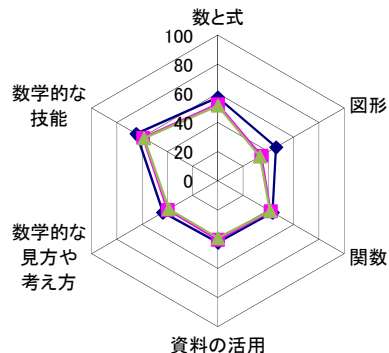
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	69.9	66.4	65.9
	図形	72.8	68.1	67.1
	関数	58.7	53.7	52.0
	資料の活用	59.6	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	71.8	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	62.0	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	57.2	52.7	51.5
	図形	46.2	34.5	33.3
	関数	43.4	41.9	41.4
	資料の活用	42.3	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	43.5	39.9	38.9
	数学的な技能	64.6	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A 宇都宮市より正答率が3.5%、全国より4.0%高い。 ○B 宇都宮市より4.5%、全国より5.7%高い。 ●A 自然数の意味の理解をみる問題は全国より2.1%低い。	今後も計算問題の反復練習の機会を多くもって、計算力を高めていきたい。3年生の「平方根」の学習の中で、自然数、整数など、今までに学習してきた数についても一度整理させたい。さらに活用する力を身につけるために、問題の意味を理解したり、考え方を説明したりすることに取り組ませていきたい。
図形	○A 宇都宮市より正答率が4.7%、全国より5.7%高い。 ○B 宇都宮市より11.7%、全国より12.9%高い。 ●A 垂線の作図や対称移動した図形を描く問題の正答率が低い。	3年生では「相似な図形」、「円」について学習するが、その事前の学習として、1、2年の学習内容の理解が不十分なところを復習させたい。その際、作図の方法や用語、定義、定理について再確認させて定着を図る。
関数	○A 宇都宮市より正答率が5.0%、全国より6.7%高い。 ○B 宇都宮市より1.5%、全国より2.0%高い。 ●A 関数 $y=2x$ で y の増加量を求める問題、1次関数の表から式を求める問題が全国よりやや低い。	関数に関する基本的な学習内容を表、式、グラフに関連づけながら、再確認させ、定着を図る。変域、増加量、変化の割合などの用語の意味や求め方を復習させる。また身の回りの事象を関数的にとらえ、学習した内容を活用する機会を多くもたせるようにする。3年生で関数を学習する際に、式、表、グラフを用いて考えることのよさを感じられるように取り組ませたい。
資料の活用	○A 宇都宮市より正答率が2.7%、全国より3.1%高い。 ○B 宇都宮市より1.8%、全国より3.0%高い。 ●A 近似値と誤差についての問題の正答率が低い。 ●B 資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題は全国より3%低い。	1年生で学習した内容を再確認し、資料を読み取り、活用する力を身につけさせていきたい。

宇都宮市立古里中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べている」では「している」「どちらかといえばしている」が98.4%で県より5%上回っている。また、「毎日、同じ時間に寝ているか」では「している」「どちらかといえばしている」77.7%で県より1.1%上回っている。ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っているといえる。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」では、「当てはまる」は80.0%で県より5%上回っている。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問では「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が76.2%で全国より6.6%上回っている。困難なことにも果敢に挑戦している生徒が多い。
- 「自分によいところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が69.2%で、県より4.7%下回っている。自己肯定感が低いことがわかる。
- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」の質問に「当てはまる」が21.5%で、県より5%上回っている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問では66.2%で、県より5.3%上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が74.6%で、県より1%下回っている。将来の目標が持っていない生徒が30%近くいる。
- 「昼休みや放課後、学校の休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどのくらい行きますか」の質問に「だいたい週に4回以上」「週に1～3回程度」「月に1～3回」「年に数回程度」をあわせると66.2%で、県より21.4%上回っている。図書館に向いて、本を読んでいる生徒が多い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問に「している」「どちらかといえばしている」が86.2%で県より10.3%上回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に「している」「どちらかと言えばしている」の質問に59.2%で、県より7%上回っている。また、「家で、学校の宿題をしていますか」の質問に「している」「どちらかといえば、している」が97%で、県より5.7%上回っている。家で毎日計画を立てて、勉強している生徒が多い。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が82.3%で県より11.6%上回っている。
- 「今すんでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が28.4%で県より8.4%下回っている。地域の問題や出来事に関心はあるが、行事に参加はしていないことがわかる。